

## コンバージスの統合課金システム「Infynys」

# リアルタイム課金とバッチ課金を両立 マルチサービスの課金を束ねNGNに備える

来るべきユビキタス・ネットワークを実現するため、通信事業者はNGNの本格的な導入検討を開始している。NGN上の新しいサービスがもたらす収益、これを確実なものにするために欠かせないのが、リアルタイム課金システムである。コンバージスの統合課金システム「Infynys」は、豊富な実績に基づいて、NGN時代におけるBillingプロセスの要件を満たす。

### リアルタイム課金が不可欠に

通信サービスには、大きく2つの課金方式がある。1つは、音声通話に一般的な月締めの「ポストペイド方式」。もう1つは、国際コーリングカードや一部の携帯電話に適用されている「プリペイド方式」である。この2方式は異なる用途で発達したため、相互に統合されることはなかった。

だが、IPによる常時接続と多様なサービスの統合が実現されるNGNになると、ポストペイドとプリペイドを融合した新たな課金方式が必要となる。

米国を中心に多くの通信事業者が統合課金システムを納入してきたコンバージスでは、この新たなサービス課金方式に着目したソリューションを提供している。それは以下に示すような具体的な課題を解決し、通信事業者と利用者の双方にメリットをもたらすと期待される。

### 顧客情報に基づいた割引の適用

「高齢者や子供には、利用制限のあるプリペイド携帯電話を持たせたい」という顧客ニーズは根強くある。但しこの場合は、「家族割引」などの料金割引が適用されない。一因は、ポストペイド型とプリペイド型サービスの顧客情報が統合されていないことにある。

異なるサービス間をまたがってトータルに割引を適用できれば、家族の事情に合わせた料金プランが可能になり、長期契約や顧客の囲い込みに結びつく。支払い手続きの一本化など、利用者と事業者の利便性も向上する。

### 与信限度額に基づいた課金

常時接続の高速通信では、「サービスの大量利用による支払い金額の増大」に注意を要する。課金制度全体は従量制から定額制に移行する傾向にあるが、PC通信や映像配信といった一部の特定サービスに関しては、従量課金となる場合が多い。映像コンテン

ツを大量に購入し、多額の支払いが発生するケースも想定される。

「サービス利用限度額の設定」ができれば、あらかじめ月内に購入可能なサービスの上限を設定し、オーダーが発生した都度、与信判断を下せる。また、設定金額を超えるオーダーがあった際には、その旨のメッセージを顧客に返信することで注意を促せる。この与信管理は、加入者の過度のサービス利用を防ぎ、事業者の料金回収コストを削減する。

### 課金システムの要件を満たす

コンバージスの「Infynys」は、以上の要件を満たす課金システムである。ポストペイド方式とプリペイド方式を融合できるほか、従来のバッチ課金処理とリアルタイム課金処理を一つのプラットフォーム上で実現しているからだ。

NGNではサービスの構成が複雑化する。これに対応して収益を確保するには、より柔軟な課金システムが必要になる。その意味でInfynysは、NGN対応の統合課金ソフトウェアといえる。

また、コンバージスは米国での実績に加え、欧州とアジア圏を中心に、リアルタイム課金処理の実績を積んだエンジニアを多数有しており、通信事業の大きな変化にも迅速に対応できる。

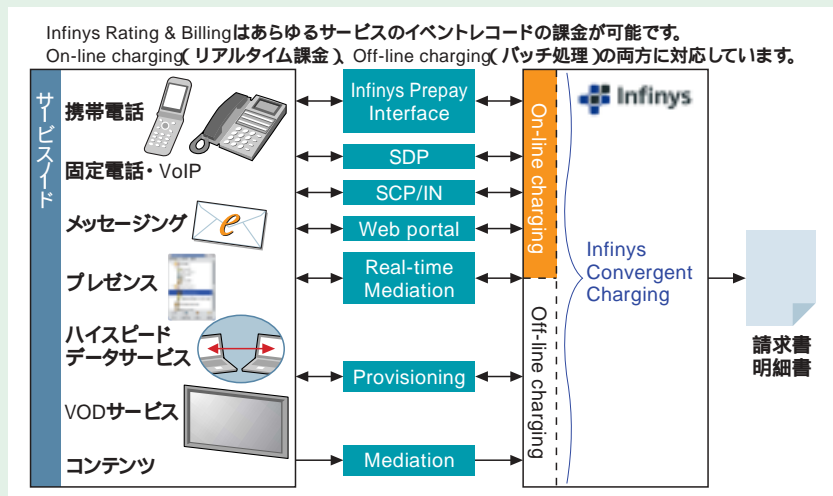
### お問い合わせ先

コンバージス・ジャパン株式会社  
営業部

E-mail info.jp@convergys.com

TEL 03-5740-6260 FAX 03-5740-6261

URL www.convergys.co.jp



「Infynys」のシステム概要